

観点別学習状況の評価（A～C）の事例とその評価基準

1 学校の実情

対象は、普通科とほぼ同等の教育課程で学んでいる総合学科の文型の生徒である。落ち着いた状況で学習ができており、標準的な学力を有している。

2 その観点で行おうとした理由

糖尿病にはI型糖尿病とII型糖尿病があり、それぞれホルモンの分泌やホルモンが分泌されてから標的器官に作用する過程に異常があるために血糖濃度が低下しにくくなる。

本時では、マウスにインスリンを投与した後、I型・II型糖尿病マウスではどのような血糖濃度の変化を示すのかという課題を与えることとした。それにより、各糖尿病の原因及びホルモンの作用する流れの知識を基に、正しいグラフを思考、判断し、理由を表現できるのかを見取ることができると考え、本時を「思考・判断・表現」を評価する時間とした。

3 評価基準 【思考・判断・表現】の評価

A マウスA、マウスBの血糖濃度の変化のグラフを正確に答え、かつ選んだ理由をそれぞれの糖尿病の原因と関連付けて表現できている。

B マウスA、マウスBの血糖濃度の変化のグラフを正確に答えられている、又は選んだ理由をそれぞれの糖尿病の原因を関連付けて表現できている。

C マウスA、マウスBの血糖濃度の変化のグラフを正確に答えられず、かつ選んだ理由をそれぞれの糖尿病の原因も関連付けて表現できていない。

※Cの場合は、マウスAはインスリンがあれば正常な反応を示すこと、マウスBはインスリンに対して反応できなくなっている状態であることに触れ、正確なグラフを見いだせるよう支援する。

4 生徒の評価例

	マウスA（I型糖尿病）について	マウスB（II型糖尿病）について	評価の理由
評価Aの例	<p>d I型糖尿病はインスリンが分泌されないため、インスリンを投与することで血糖濃度が下がり、血糖濃度をまた上げて正常にするから。</p> <p style="text-align: center;">○ ○</p>	<p>e II型糖尿病は、標的細胞がインスリンを受け取れないため、インスリンを投与しても血糖濃度が下がることはないから。</p> <p style="text-align: center;">○ ○</p>	<p>糖尿病のI型II型の違いから思考し、マウスA、マウスBともに正しいグラフを選択し、理由も適切に表現することができている。そのため、「十分満足できる状況」と判断できる。</p>
評価Bの例	<p>c I型糖尿病な場合は、インスリンの分泌ができないだけなので、インスリンを投与すれば血糖濃度は下がる。</p> <p style="text-align: center;">× ○</p>	<p>II型糖尿病の場合は、インスリンは分泌されているが、標的細胞が受け取れないため、インスリンを投与しても、標的細胞は受け取れず、血糖濃度は変わらない。</p> <p style="text-align: center;">○ ○</p>	<p>マウスBについては、正しいグラフを選択し、理由も表現できている。だが、マウスAについては、正しいグラフが選べておらず、また、血糖濃度が後半に上昇することに触れることができていないため、「おおむね満足できる状況」と判断できる。</p>

評価 C の例

c	<p>インスリンを打つと血糖値が下がり、I 型の人、何も食べないと上がることはないから。症状として、意識がもうろうとすることがある。</p>
×	△

d	<p>インスリンを打つと一瞬は下がるけど。</p>
×	×

糖尿病の I 型 II 型の違いからの思考が不十分で、適切なグラフを選択したり、理由を表現したりすることができていないため、「努力を要する状況」と判断できる。